第 4 回連携部会議事録(案)

日　時　：2020 年 12 月 18 日(金)14:00～16:00
場　所　：Teams による Web 会議
出席者　：山本康友部会長、吉田哲副部会長
(敬称略)　岩村雅人、楠山登喜雄、小林伸樹、杉安由香里、関戸有里、田中武、戸泉協、富樫俊文、能勢平太郎、橋口達也、馬場勇輝、武藤正樹、森谷靖彦、山本敦
事務局　：寺本英治、山口浩史、渋田玲、福島孝治、平田昌美

配付資料：

【資料 連携 4-0】議事次第
【資料 連携 4-1】連携部会組合員リスト
【資料 連携 4-2】第 3 回連携部会議事録(前回議事録)
【資料 連携 4-3-1~4-3-4】BLCJ 技術運営委員会(第 3 回)資料
【資料 連携 4-4】建築 BIM 推進会議(第 5 回)資料(抜粋)
【資料 連携 4-3-4】(前掲)今年度の業務概要と外部委託予算
【資料 連携 4-5-1】仕様書連携・特記仕様書連携について
【資料 連携 4-5-2】建産協との連携について

議事次第：

（１）BLCJ 技術運営委員会(第 3 回)の報告
（２）建築 BIM 推進会議(第 5 回)の報告
（３）今後の連携部会の取組
（４）その他

【確認事項】
・今年度の業務内容・外部委託予算配分について確認。
【決定事項】
・次回日程は令和 3 年 2 月 26 日(金)14:00～16:00（時間前後の可能性あり）
・仕様書の構造化に関連して 1 月から 3 月に組合員に作業をお願いする。
【懸案事項】
・仕様書の構造化の内容に関する議論、作業項目は今後決定。

議事：

（０）議事録確認

山口：　（【資料 4-2】に基づき議事録確認）

（１）BLCJ 技術運営委員会(第 3 回)の報告

山口：　（【資料 4-3-1～4-3-4】第 3 回技術運営委員会の内容について報告）

建築 BIM 推進会議に示す資料について、BLCJ 標準 Ver2.0 の定義を明確にすること、部会間連携に関する報告を確認した。2020 年度業務内容/予算について異議無し。

（２）建築 BIM 推進会議(第 5 回)の報告

寺本：　【資料 連携 4-4】の内容について報告

第 5 回（今年度第 1 回）建築 BIM 推進会議が 12 月 16 日開催された。年度末にもう一回開催予定。学識委員に東京都立大・小泉先生が加わった。

官庁営繕部の取組、BIM を活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業について報告、各部会の報告があった。

部会 2 としては第 3 回技術運営委員会で検討した内容（3 つの方針変更、各部会等との連携事項の整理、ロードマップ概略）を発表した。参考として標準仕様書との連携の仕組みのイメージとメリットを示し、報告内容について以下の質疑があり、回答した。

Q.施工段階でメーカー毎に異なる呼称をどう調整するか

→A.部会 5 と連携しながら検討する

Q.属性情報が多いとオブジェクトが重くなるのでは

→A.ユーザーが必要な段階毎に必要な情報を取り出すことで対応する

また、部会終了後に国交省より、3 月の部会には成果の発表を求められた。

武藤：　「データの見読性」について各所で様々な言われ方がある。電子データに求められる用語の定義は整理して行きたい。

（３）今後の連携部会の取組

- 2020 年度の業務内容について

山口：　【資料 連携 4-3-4】に基づいて今年度の業務内容、連携部会の作業イメージについて説明。各部会の外部委託予算について在り方・連携部会で概算 500 万円程度を予定している。今後、各部会合同部会を開催しながら統一的な資料の取り纏めに寄与したい。

組合員の設計事務所・施工所属の方に分類コードに関する各社の状況について

調査を依頼中。

➢ NBS Chorus について

寺本：　【資料 4-5-1】に基づき、NBS Chorus の調査の現状を報告。

日本版 Chorus システムを目指して仕様書の構造化を検討中である。フォーマット等詳細が決まれば 1 月から 3 月に作業分担をお願いする。

➢ 建産協との連携について

寺本：　【資料 4-5-2】に基づいて(一社)日本建材/住宅設備産業協会と連携について報告。連携を開始した。デジタル化による各者のメリットの本質論議が必要である。

作業分担、作業の場等整理して 1 月に再度説明を行う。材料・設備メーカーのメリットの本質議論についてご意見頂きたい。

吉田：　メーカーの BIM メリットについて、設計の初期段階、仕様書で選んだ段階で適合するメーカーが存在しても繋がっていない。受け取るメーカーも項目を整理する必要がある。両者が繋がればコードから見積が早くなり発注に繋がる。

納品してから運用に入ってからの点検保守データが維持管理者側に繋がっていない。コードを統一化すれば実運用での性能・LCC 情報を将来的に設計仕様に反映できる。

質疑/意見：

岩村：　NBS Chorus はよいシステムだが高価。年間 50 万円/台程度で、日本の設計料の Fee ではインパクトが強すぎる。

日本の良いところは既に標準仕様書があることで、一から書いていくシステムでは無いため、簡素化したシステムはあり得る。

システム開発は数千万から億単位のイメージ。予算規模のイメージも示しては。

寺本：　仕様書が選択式であること、指針がある中でなるべく簡単な物を目指す。今後機能要件を纏める。金額については詰めてから把握したい。

山本：　次回連携部会は 2 月を予定しているが、1～3 月の分担作業について、個別にお願いするのか。

寺本：　雛形を作成中。項目について議論があれば議論だが、仕様書の構造化についてはルールを決めれば個別に作業可能と思うが、関係者のミーティングは必要。

次回日程：

令和 3 年 2 月 26 日(金)14:00～16:00（時間は前後の可能性あり）

（以上）